

Q&A

胆嚢結石症の経過観察中に出現した嘔吐症

【問 題】

症例：72歳，女性。

主訴：嘔吐。

現病歴：以前より胆嚢結石症の指摘を受けていたが，自覚症状なく経過観察となっていた（Figure 1）。201X年10月，右上腹部痛を自覚し近医を受診。鎮痛剤の内服で経過観察となっていたが，その後嘔吐もともなうようになり，精査加

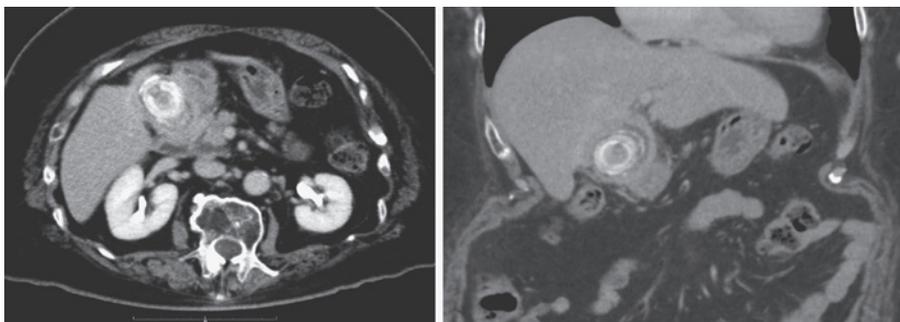


Figure 1. 発症2カ月前のCT スキャン：胆嚢内に結石あり．胆嚢壁肥厚あり．慢性胆嚢炎の診断であった。

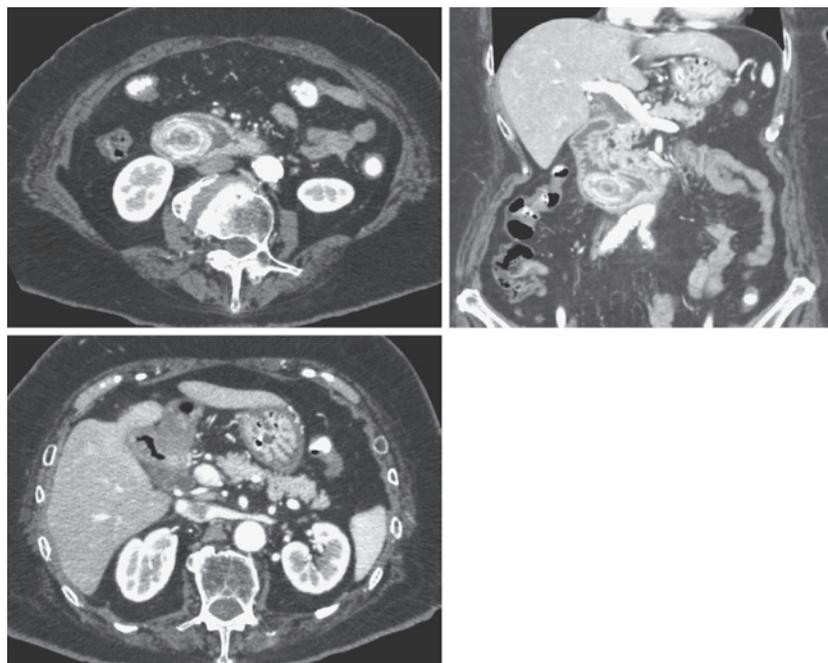


Figure 2. 嘔吐出現時のCT スキャン：十二指腸に結石と思われる high density な構造物を認める．胆嚢内に air density あり．

2020年5月

療目的に当科へ紹介となった。

身体所見：バイタルサインに異常なし。右季肋部、右背部に疼痛あり。腹膜刺激症状なし。

血液検査所見：WBC：6100/ μ l, RBC：324万/ μ l, Hb：11.1g/dl, Plt：22.9万/ μ l, CRP：0.58mg/

dL, T-Bil：0.6mg/dl, AST：23U/L, ALT：27U/L, ALP：193U/L, γ GTP：24U/L.

画像所見 (Figure 1, 2).

診断は何か？